

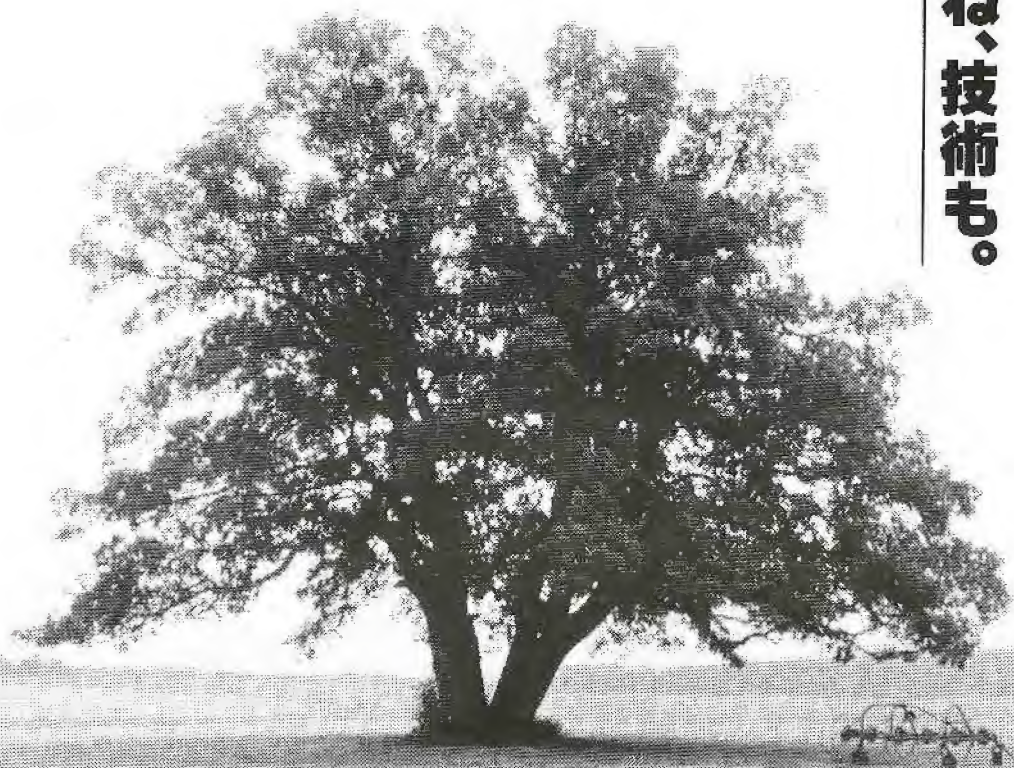
技術にこころをこめて75年



HITACHI

シンプルがいいね、技術も。

近年、〃技術〃はますます高度で複雑になってきました。専門知識を持った人や経験を積んだ人でなくては扱えないような機械もふえています。でも本来機械は、誰もが気軽に使えるものであるべきでしょう。これからの技術には単純明快なわかりやすさが必要なのです。いま日立はインターフェイスという言葉のもとに、人間と技術とのよりよい関係、誰もがかんたんに使いこなせる技術の実現をめざして研究・開発をすすめています。



株式會社 日立製作所　宣伝部 〒101 東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地 TEL東京(03)258-1111(大代)

競技規則の一部改正について

1、**スローオフ**

10：3　得点された後、スローオフはゴールキーパーにより、ゴールキーパーラインから行われる。ゴールキーパーはボールを保有し、スローを行うとき片方の足はゴールキーパーラインの上になければならない。

　スローオフはレフェリーが笛を吹いてから3秒以内にゴールキーパーにより、ゴールキーパーライン上から行わなければならない。

10：4　前半及び後半開始のスローオフは、競技場の中央から、どの方向に向かって行ってもよい。スローオフはレフェリーが笛を吹いてから3秒以内に行わなければならない。

　但し、すべてのプレイヤーは自分の競技場にいなければならない。

10：5　スローオフの時には、ボールを保持していないチームのプレイヤーは、スローが行われるまでボールから少なくとも3m離れていなければならない。

2、**フリースロー**

13：4　フリースローを行うとき、攻撃側プレイヤーはフリースローラインの中は3m以内に居てはならない。

3、**センターラインを越えてプレイバックすること。**

7：11　ボールがセンターラインを越えて、相手コートに入ったならば、そのボールをセンターラインを越して自己のコートに戻すこと。（解説プレーバック）

4、**作戦タイム**

2：5　両チーム共前半、及び後半に各1回の作戦タイムをとることができる。延長があれば、それは後半とみなす。

　各作戦タイムは1分とする。チームが作戦タイムをとるときは、タイムキーパーに告げなければならない。タイムキーパーは競技が中断したときに作戦タイムを要求したチームがボールを保有していれば笛を吹き、同時に時計を止める。レフェリーはそれによって作戦タイムの合図を行う。

競技規則の解説

1、**スローオフ**

10：3

＊レフェリーはスローオフを焦らせることなく、またプレイヤーからあおられることなく冷静にゴールキーパーが正しい位置に付き防御側プレイヤーが全員フィールドに戻ったことを確認してから笛を吹く。

＊ゴールキーパーが正しい位置に付き、レフェリーの笛が吹かれた後に、ボールを下に落としたり、投げ損なってボールがゴールエリアラインを越えなかったり、コントロールしそこなって自ゴールに入った場合には、やり直しをさせる。

＊ゴールキーパーからのスローオフの時には、両チームのプレイヤーは競技場（ゴールエリア内を除く）のどこにいても差し支えない。

2、**フリースロー**

＊ゴールエリア前のフリースローの時は、ゴールエリアラインとフリースローラインの間では、ボールから3m以内には、攻撃側も防御側もいてはならない。

　このときボールが、ボールを保持しているものの手から離れる前に3m以内に攻撃側、防御側共に近づいたときには注意を与え、再び繰り返されたときには警告を与える。

3、**センターラインを越えてプレイバックすること。**

7：11

＊次の場合にレフェリーは相手コートにボールが持ち込まれたものと判断する。

・自己のコートのプレイヤーが、ボールを保持して、相手コートに触れたとき。

・相手コートのプレイヤーが、味方からパスされたボールを保持したとき。

・相手コートでボールを獲得した場合は、そのプレイヤーが相手コートに触れたとき。

　プレイヤーは、相手コートに触れたときから、相手コートに属するものと判断される。この状態は、そのプレイヤーが自己のコートに触れるまで継続される。

＊相手コートにボールが持ち込まれたならば、次の場合に、プレイバックが成立する。

・自己のコートにボールが触れたとき。

・自己のコートのプレイヤーが、ボールに触れたとき。

・相手コートのプレイヤーが、ボールを保持して、自己のコートに触れたとき。

＊プレイヤーが空中にいる場合は、踏み切った位置で判断する。

＊フリースローは、プレイバックが成立した位置から行う。

＊プレイバックが成立しても、明らかに相手側がボールを獲得すると判断される場合には、レフェリーはプレイバックの判定をしてはならない。

4、**作戦タイム**

2：5

＊作戦タイムは、タイムキーパーの笛で時計を止め、レフェリーの合図から作戦タイムの時間を計測する。

＊タイムキーパーは作戦タイムを申告したチームがボールを保持し、競技が中断されたときに笛を吹き、腕をあげて方向指示、又は矢印の表示板で作戦タイムを取ったチームをレフェリーに示す。

＊タイムキーパーは45秒たったところで笛を吹き合図する。

＊タイムキーパーの笛は、レフェリーと違う笛を使用することが望ましい。（棒笛・三管笛）

＊作戦タイムはベンチ前で行う。

第5回オールスター戦(女子)分析

—「新ルール」による試合様相の変化—

担当審判/岡本研二・清水宣雄

日本ハンドボール界の危機の打開のために「魅力あるハンドボール」を求めて、日本協会は4月1日より「新ルール」の実施を決定した。今回のオールスター戦が、「特別ルール」の名のもとに「新ルール」プラス9m外からのシュート!!2点という、いわば最初の「実験」の性格を有していた事は誰も否定できないであろう。そして恐らく、審判法などは既成事実化していくものと考えられる。今回の改正がハンドボールの本質にかかわる、かつてない大改正の内容を有しているが故に、女子ゲームを担当した我々の責任は大きいものがある。以上の立場から、①VTRによる試合様相の変化の分析、②審判ルール適用とゲーム運営の問題点について述べたい。

●実施細則の確認内容

1、得点後のスローオフのGKラインからの開始　2、フリースロー時の攻撃側プレーヤーの9m内侵入の許可　3、プレイバックは反則　4、各チーム、各ハーフ1分間の作戦タイム　5、9m外からのシュートは2点、という規定だけでは運用する事は不可能であり、当日、安藤運営委員長の指示のもと「新ルール実施細則」に準じて監督とも次の確認を行った。

1については、攻撃側が6m内にいる間は吹笛しないが故意に遅らせる行為があった時は警告する、GKがラインにつきしだい吹笛する。2では攻撃側も9m内はボールから3m離れる事。3は、センターラインは平面とみなし、返されたボールがコートに落ちた地点か直接選手が触れた地点から相手のボールとする、ただしアドバンテージは適用しない。4は、ベンチ通告後のそのチーム側のボール所有中の最初の中断時に成立、審判のタイムアウトの合図から1分間、15秒前にオフィシャルが笛を吹く。5、シュート時にはセンターレフェリーが両手を上に挙げる、などが主な内容である。

●「特別ルール」によるプレーの特徴

監督、選手ともに「一夜漬」であり、また勝敗を度外視した試合なので多くは語れないが、次のような結果となった。

- プレイバックは4回。全て、追いかけ速攻時のリターンパスでのミスであり予想外であったが、選手が慣れると少なくなると思われる。但し、速攻の戻りでプレス気味の防御をすれば有力な戦術となる可能性がある。
- 作戦タイムは前半2回、後半1回使用。選手は早目に入場。
- フリースロー時の9m内侵入で直接パスからシュートをねらったケースが3回。その内1回得点。若干の位置の取り合いがあるが、比較的問題は無し。
- 2点シュートの試みは両チーム合計で51回（速攻4、セット47）。得点15回（速攻3、セット12）、但し、審判の見逃しで5本は1点シュートに終わり結局10本。
- GKからのスローオフが速攻になりシュートまでいったのが3本で2本が得点。（表1）但し、これは選手の帰陣の早さが優秀で一般化できないであろう。
- 得点からスローオフに要した時間は平均4・6秒で今までの約10秒からみると半減し、1試合にすると3—5分の短縮化、スピード化がはかられたといえる。（図1）

表1，GKスローオフからの攻撃

従来どおりのセット	39回
飛び出し速攻からシュート	2
追いかけ速攻からシュート	1
〃　　セット	11
審判の制止	5

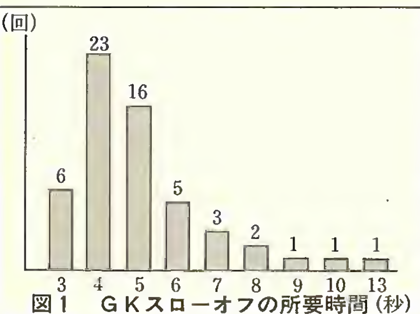


図1　GKスローオフの所要時間(秒)

●審判上の問題点

選手と同様に初体験であったので多くのミスと混乱の結果となったが、実感としては、心身共に従来の倍の疲れを感じた。今後、慣れるに従って余裕を持って望めると思うが集中力や体力のコンビネーション、ジェスチャー等、課題が多くなる事はまちがいない。

- 作戦タイムで相手側の所有時にオフィシャルが笛を吹いたが気がつかず、再開も中断時にふさわしいスローである事を忘れていた。作戦タイムの開始の笛はどちらかの審判に決めておかないと混乱する可能性がある。
- プレイバックの反則時にポイントに行く事は難しい。センターラインにした方が混乱は少ない。大きな独自のジェスチャーが必要。
- フリースローの9m内については、今回はむしろ全面的に許可しても良かったと思う。3mの領域を判別する事は非常に困難である。但し、戦術が多様になって位置どりのトラブルが生じる可能性は大きい。
- 今回、2点シュート時の「9mラインクロス」をセンターレフェリーが見極めるのは無理であった。一度に多くの識別はできない。但し、本質的に不可能かもしれない。第三者の判定員を置くなら良いが、

表2　女子ゲーム比較

		ALL STAR		ALL JAPAN		IN COLLE		AVERAGE	
チーム名		東軍		東女体大		東女体大		勝	
総得点		35		29		25		24.7	
攻撃回数	セット	94	69	64	43	68	52	69.5	55.9
	速攻		25		21		16		13.6
シュート達成率		0.787		0.719		0.750		0.682	
速攻率		0.266		0.328		0.235		0.196	
シュート数・シュート率	シュート数	74		46		51		47.4	
	速攻	9／17		13／15		8／12		7.7／10.4	
	ロング	4／16		1／4		3／8		2.8／10.7	
	ミドル	4／17		3／11		2／7		2.8／7.8	
	カットイン	9／9		3／4		5／8		3.7／5.8	
	サイド	3／7		4／5		4／9		3.6／6.8	
	ポスト	6／8		5／7		3／7		4.2／5.8	
	シュート率	0.473		0.630		0.490		0.521	
退場数		1		3		1			
チーム名		西軍		シャトレーゼ		筑波大		負	
総得点		23		22		20		18.5	
攻撃回数	セット	87	73	69	67	66	60	69.4	53.8
	速攻		14		2		6		15.6
シュート達成率		0.724		0.652		0.712		0.657	
速攻率		0.161		0.029		0.091		0.225	
シュート数・シュート率	シュート数	63		45		47		45.6	
	速攻	5／8		1／1		3／5		5.0／8.1	
	ロング	8／33		2／14		5／22		3.0／14.7	
	ミドル	0／4		6／9		2／3		1.7／6.7	
	カットイン	3／3		5／7		2／6		3.4／5.6	
	サイド	5／9		4／8		4／6		2.7／6.1	
	ポスト	2／6		4／6		5／5		2.7／4.5	
	シュート率	0.365		0.489		0.426		0.406	
退場数		0		0		4			

＊AVERAGE ＝
85, 86 年ALL JAPAN と IN COLLEの中の27試合の平均値

＊シュート達成率＝
シュート数／攻撃回数

＊シュート率＝
得点数／シュート数

＊速攻率＝
速攻数／攻撃回数

＊攻撃回数＝
攻撃権を得てシュートを打つか，ミスでボールの所有を失うまでを一回と数える。
（リバウンドやコーナーは新たに一回，DFの反則時は継続）

＊PTのシュートは，PTを得たシュートの種類に分類。

＊速攻＝
DFの守備体型が完成せずしかも，攻撃側が一旦停まることなくシュートまで到達したか，ボールの所有を失うまでを一回と数える。
（速攻を試みたがセットになった時はセットとみなす）

＊ロング＝
セット攻撃時における9M外，9Mライン上からのシュート。

＊ミドル＝
セット攻撃時における9M内でDFの前からのシュート。

＊速攻時のシュートは全て「速攻」のシュートに分類。

＊ALL STARの得点は全て1点として計算。

ゴールレフェリーの方が見える時があるので、観衆や記録席にわかる方法なら何でも良いと思う。シュート時に2点シュートの合図をするのは不可能であり、ゴールラインの時で意味は通じる。

・スローオフのスピード化によってサイドの交替チャンスが縮小された。PT時のような中断はもとより、ボールがコートから大きく出た時に交替する事も必要。また、得点などを記録する余裕もなくなった。ゴールインの笛をゆっくり吹いているとまにあわなくなり時には三つの笛になる。GKとのタイミングは思ったよりスムースにいったが、速攻を狙う時にはトラブルが生じる。今回の改正主旨からいけば、むしろ、笛なしの再開の方が矛盾がないのではないか。センターレフェリーがオフィシャルと確認を取る暇はなく、ただちに速攻に備える必要がある。

・全体的には、スピード化によって緩急の間合がとれなくなる事、連続ダッシュの体力が必要で疲労がかなり増大する事、ラインや領域の判別が一挙に増え、肝心の身体接触に集中できなくなる恐れがある事などで審判の能力差や地域差が従来よりも更に拡大すると思われる。つまり、適応に時間がかかるという事である。

●試合様相の変化

オールスター、昨年の全日本インカレ決勝、更に、全日本、インカレの27試合の平均値を比べてみると「新ルール」による試合様相の変化の特徴がわかる。（表2）

・攻撃回数が異様に増加している。また、シュート数も非常に多い。

・速攻も増えてはいるが思った程ではない。

・ロングシュートが圧倒的に多いが、そのシュート確率は低い。

・攻撃時、シュートまでいく割合が高くミスは少ない。

・シュート確率は極めて低い。

まとめてみると、スローオフのスピード化によって攻撃時間が増加し、攻撃回数やシュート数が増えた。しかし、その比率以上に攻撃回数、シュート数が増えており、明らかに両チーム共に早い攻撃をめざした。そして、それは速攻にむかうというより、セット攻撃の短縮化（たぶんパス回数の減少、1回の攻撃時間の短縮）をひきおこした。第二に、2点シュートをねらってロングが激増した。しかし、試合全体のシュート確率は非常に悪かった。

●今後のために

日本協会の意図するところは、スピード化（走るハンドと速攻の復活）と空間の拡大化（ロングの増加と中盤の攻防）によって「魅力あるハンド」を創造し、世界に再び向かう条件を構築しようとするところにあり、そのためのインパクトとして世界に先がけて「新ルール」実施を決定したといえる。今回の「実験」は、その意味でスピード化とロング化に成功したかにみえる。しかし、それを「面白い」ものにするにはもうひとつの「正確さ」が不可欠である。今回の「確率の悪い」ハンドがなおざりにされ、いたずらにスピード化（ただ早いだけでなく、緩急の区別にこそ真のスピード感が形成される）が志向されるなら意図とは異なった結果となるであろう。

本来、文化の創造には、多くの知恵と意見を積み上げていく事と発展方向を見定めるための正確な現状分析が不可欠である。しかも今回の改正は、ハンドボールの未来を考える上で、多くの人（特に、現場の監督・選手や愛好家）の充分な議論がされてもされすぎる事のない性格のものである。私見ではあるが実施には1年間の試行期間を置く慎重さがあっても良いのではないか。とはいえ、今回の改正のエネルギーを後退させる事は許されない。一見、唐突にみえる「新ルール」の提起であるが、実は、1985年12月号で討論のよびかけがあり、何の意見のなかった事を思い出す必要がある。その過ちをくり返してはならない。

第5回
日本リーグオールスター戦

〈1月18日・大阪市立中央体育館〉

第5回の日本リーグオールスター戦は、1月18日、大阪市立中央体育館に、東西の男女スタープレーヤー60名を集めて開催された。

昨年は都合でこのオールスター戦は開催されず、2年ぶりの大会となったが、今回は4月から適用される新ルールを用いての試合ということで、スタープレーヤーの華麗なプレーとともに、新ルールの運用面も大きな興味を集めた。

試合の方は、男子は西軍、女子は東軍が勝利を飾り、通算成績を、男子・西軍の4勝1敗、女子・東軍の2勝3敗とした。

〈男子〉

西軍 42 （19―21、23―10） 31 東軍

〔戦評〕平均年齢は西軍の方が高いが、パス、走とも単独チーム同様の円滑さを示し、玉村（西軍・湧永製薬）の長短シュートは高い確率を示し、雰囲気を盛り上げた。

東軍は、郡司（三景）の好走、好投は目立ったが、スピードが全体的にまとまりが足らなかったが、将来性に富む素質は多くみられた。

〈女子〉

東軍 37 （21―13、16―18） 31 西軍

〔戦評〕混成チームによる生硬さは10分ほど続いたが、2点シュートに挑戦した野嶋、丸田（西軍）、石井、武藤（東軍）らの意欲は買える。

フェイントとフットワークによる絶妙な計算性あるプレーをした李相玉のプレーは、特に光り、東軍の勝利に大きく寄与した。

〈男子〉

得点	〔西軍〕		〔東軍〕	得点
0	①井藤英志（湧永製薬）	GK	①矢内　浩（大崎電気）	0
0	⑫大畑孝広（本田技研）	GK	⑫宇田川敏郎（三陽商会）	0
8	②西山　清（日新製鋼）	FP	②松岡　寛（大崎電気）	2
7	③生駒靖夫（湧永製薬）	FP	③越迫敏博（大崎電気）	1
3	④立木浩二（本田技研）	FP	④星野　薫（大崎電気）	1
5	⑤志賀良弘（湧永製薬）	FP	⑤山本興道（大崎電気）	0
11	⑥玉村健次（湧永製薬）	FP	⑥宮下和広（大崎電気）	8
2	⑦山本伸二（湧永製薬）	FP	⑦菅田信也（大崎電気）	1
0	⑧佐々木信男（本田技研）	FP	⑧首藤信一（大崎電気）	6
0	⑨武田大伸（日新製鋼）	FP	⑨山口哲史（三陽商会）	2
3	⑩吉山慎一（本田技研）	FP	⑩実方　智（三陽商会）	0
1	⑪粟屋敏則（本田技研）	FP	⑪清家伸二（三陽商会）	2
1	⑬田口　隆（本田技研）	FP	⑬近藤浩人（三　景）	1
1	⑭山本秀明（本田技研）	FP	⑭鈴木敬介（三　景）	0
0	⑮甲斐幸平（日新製鋼）	FP	⑮郡司　勉（三　景）	7
42				31

（審・島井 崎上）

〈女子〉

得点	〔東軍〕		〔西軍〕	得点
0	①梅野康子（大崎電気）	GK	①木村貴代美（ジャスコ）	0
0	⑫葛生豊子（日立栃木）	GK	⑫荒木晴美（立石電機山鹿）	0
8	②李　相玉（大崎電気）	FP	②岩村英子（立石電機山鹿）	0
1	③徳渕妙子（大崎電気）	FP	③寺沢路子（ジャスコ）	0
6	④石井美沙子（大崎電気）	FP	④池上由美（立石電機山鹿）	0
3	⑤金　玉花（大崎電気）	FP	⑤石田裕子（ジャスコ）	0
2	⑥前田重子（日立栃木）	FP	⑥服部淳子（ジャスコ）	0
2	⑦手打ひろみ（日立栃木）	FP	⑦江口由美子（立石電機山鹿）	0
3	⑧山岸和子（日立栃木）	FP	⑧野嶋ちえみ（立石電機山鹿）	7
3	⑨武藤夕起子（日本ビクター）	FP	⑨山内香代（立石電機山鹿）	2
6	⑩長田友子（日本ビクター）	FP	⑩近藤育子（ジャスコ）	4
1	⑪下條千恵子（日本ビクター）	FP	⑪上西二三代（大和銀行）	2
0	⑬松尾輝子（大崎電気）	FP	⑬丸田紀子（大和銀行）	9
1	⑭井沢由美子（日本ビクター）	FP	⑭赤瀬珠栄（大和銀行）	3
1	⑮根本幸枝（日本ビクター）	FP	⑮上村多恵子（大和銀行）	4
37				31

（審・清岡 水本）

男子ジュニア韓国遠征合宿報告

1月15〜22日
韓国・済州島

男子ジュニア・ナショナルメンバーが、1月15日から22日までの8日間、韓国・済州島で合宿を行い、韓国チームとの合同練習、試合を通じて、大きな刺激と多くのものを学んできました。

ここに参加者の感想文の中からいくつかをご紹介致します。

坂口俊幸

1　韓国ハンドボールを見ての感想

韓国のハンドボール選手は、平均的に体も小さく、体重もそれほどない。しかし、瞬発的なスピード、体の柔軟性、パワーなど兼ね備えた選手が多い。

また、ディフェンスでは、フットワークでの前後のピストン・ディフェンスの素晴らしさ、隣りの人間との連係の素晴らしさ、どれを取っても自分には勉強になることばかりでした。

練習の時のいきごみから、私たち日本人とは違うと思いました。

オフェンスは、サイドシュートの確率のよさ、ロングシュートは位置取りのよさ、ボールをもらう前のスピード、自分が練習中に注意されたことなど正確にできているなと思いました。

2　この遠征での自分の体験

この遠征で自分はキャプテンという仕事をやったわけですが、いろんな所から集った、いろんな個性ある選手を一つにまとめるむずかしさなど、キャプテンという仕事を通じて大きな勉強ができたと思います。

また、西ドイツなどに行った時は一番年下で、藤井さんなどについていき、いろいろ迷惑もかけました。それでも藤井さんはチームを一つにまとめ、試合中もみんなを引っぱっていかれたところなどはすごいなとつくづく思います。

そのことを考えると、自分はキャプテンという名ばかりでこの遠征を終ってしまったと思います。

3　今後のチームについて

今後のチームは、韓国チームとの試合でもわかるように、日本的なディフェンスをすると、容しゃなくロングシュート、サイドシュートなどで得点されてしまうので、シュートを打たせないようなディフェンスをするようにしなければいけないと思います。



○この遠征で学んだこと

この遠征で自分はいろんなことを学ぶことができました。

ディフェンスの面では、韓国選手を守るには、韓国選手のスピードに対応できる速いフットワークと攻撃の次の攻撃まで読まないことには、守ることができないということです。

攻撃面では、シュートを打つ時、体にスピードがないとシュートは入らない。9mラインでは、シュートは打てない。ディフェンスの人間を一人かわしてシュートは打てないなど、簡単にはシュートは打てないなど学ぶことができたと思います。

井上博文

1　韓国ハンドボールを見ての感想

今回、初めての韓国チームと試合したわけだが、まだまだ私たち全日本ジュニア・チームには韓国チームを見習わなければならない点が多い。

まず韓国チームを見ての第一印象は、試合中のボールに対するすさまじい執念である。またボールをもらってからの速攻の展開が速かった。それに、パスは素早く、かつ正確に出すし、またよく走りまくる。そして、これは自分が思ったことだけど、相手のスキをつくのが上手だ。プレーはみんな積極的で、動きが速い。背が低い人は低いなりに動きがシャープで、高い人は高いなりに高い打点を生かしたロングシュートを放つ。またディフェンスはつぶしが早く、自分たちの思ったようなプレーをさせてくれない。

そして、よく声が出ていた。

2　この遠征で体験したこと

○自分はどうであったか

自分は海外遠征に初めて参加し

たわけだが、最初は少し不安だった。しかし、日がたつにつれて、徐々に環境にも慣れた。練習でも自分の欠点を本田先生に指摘してもらい、今回の遠征は自分にとってよい経験でした。

韓国チームと対戦して、日本とは違ってロングシュートの速さにビックリさせられた。わかってはいても、手をかすめて入れられる。さすが手首が強そうです。

この遠征で、自分の持てる力はフルに発揮できたと思います。

○チームは今後どうあるべきか

一人一人の個人の技術はよいものがあるのだから、もっと練習の時から試合をやっているつもりでやらなければならない、と思う。また、凡ミスを減らし、互いに注意し合っていけばチームは向上していくと思う。

少しでも点数が離れるとだらだらするから、最後まで気をひきしめていかなければならないと思う。そして、最後まであきらめずにやったならばあきらめはつくけれど、途中でダラダラしたら悔いが残ると思う。だから、これからが今後の課題だと思う。

田中正道

1　韓国ハンドボールを見ての感想

一番印象的なのは、小さな小学生から高校生、そして男・女のジュニア、それに大学生に至るまで全く同じといっていい程に、練習内容、そして試合中のコンビプレーに至るまで似ていた。特に、試合をした男子においては、スピードがあり、フェイント、ジャンプ力では自分たち以上であった。そして、ボールをもらう前でのスピードがあり、そのままスピードで打ち込まれるシュートには驚いた。日本国内のハンドボールしか知らない自分は、ディフェンスの激しい当たり、そしてロングシュートには目を見張らされた。

最後に、国柄が違うからかもしれないが、ハンドボールに打ち込む姿勢には大変勉強させられた。

2　この遠征で経験したこと

①自分自身が実際何を経験したか

練習時においては、一番にディフェンス。ディフェンスでは、前につめること。そして激しく当たること。オフェンスにおいては、パス。そして、パスを受ける前に動いて受けとる。ランパス、そしてランニングキャッチについてなど、ハンドボールにおけるすべて。

試合においては、ディフェンスのつめ、及び当たりが悪いと、簡単にシュートを打たれたこと。そして、どのチームもスピード感があり、またジャンプ力もすさまじい。そして、ボールに対する執念には大変驚いた。

②チームは今後どうあるべきか

一番大事なことは、ディフェンスの強化（前へのつめ、横との連係など）である。オフェンスにおいては、ミス（パスミス、キャッチミス、オーバーステップ、シュートミス）をできるだけ少なくすることが大事であり、全体的には各人が練習、試合などで元気一杯のプレーをすること。そして、外国との試合を多くすることが大事ではないかと思う。

3　こちらへ来て学んだこと

初めての海外であったので、何もかも初体験であった。しかし、終りになってくると、日本との合宿とあまり変わらなかったと思う。そして、韓国人と話したりして、言葉はわからなくても何かと通じたのはうれしかった。

三輪澄高

1　韓国ハンドボールを見ての感想

韓国チームとは、高校1年生の時に東亜高校と対戦したことがある。この時は背も小さく、体も細く、たいしたことないと思っていたけど、いざ試合が始まると、人が変ったかのように走りまくり、速攻にセットにディフェンスにスキがなくあっという間に点を取られ、試合が終ってみると10点という大差で負けてしまいました。

この時感じたことは、まず第一に試合に対する集中力がすごいと思いました。プレーが積極的で思い切りがよく、とにかくその時はあっという間に終ってしまいました。

2回目は、3年生の時に永東高校と対戦したことがありました。その時は接戦で、うちの高校も速攻で頑張りましたが、最後にはシュートの決定力で負けたという感じでした。

そして、この遠征でナショナルや大学、高校生と対戦して、自分が対戦した時に比べ、すべての面で日本は韓国にどんどん離されていく感じがしました。

2　この遠征で体験したこと

①自分はどうであったか

自分がこの遠征で韓国チームと対戦してまず第一に思ったことは、スキがないということです。日本では通用するプレーがほとんど通用しませんでした。フェイントやロングシュートなんか特に通用しませんでした。

全体の反省として、練習をおろそかにしてしまい、自分のペースでやってしまって、この遠征でプラスになったことはほとんどありませんでした。

②チームは今後どうあるべきか

日本の練習と韓国の練習を見ていて、韓国は時間は短いけど、一つ一つの動作が実戦的できびきびして、能率のよい練習をしているなあと思いました。日本の練習は内容はいいけど、自分たち（遠征を経験している）が頼りないために高校生にも伝染してしまい、監督やコーチにおこられっぱなしで、だらけたムードになってしまい、それがそのまま試合に出てしまいました。

今後は、こんなことがないよう練習からもう試合が始まっているつもりでいけば、自然とチームもひきしまり、よい結果が出ると思います。

3 その他いろいろ感じたこと

韓国の選手たちは、日本の選手と違い私生活がしっかりしていると思いました。

田中英視

1 韓国ハンドボールを見ての感想

自分が初めて韓国のハンドボールを見たのは、高校1年の時の三国対抗試合で、その時、韓国でナンバーワンだった東亜高校を見ました。実際試合をしてみると、日本の高校生のハンドボーラーと比較できない程、集中力、精神力、体力が上回っていました。

やっぱり韓国の選手たちの一人一人が、ハンドボールに対してものすごく真剣で、真面目に取り組んでいる姿勢が、あれだけの韓国ハンドボールを作りあげたのだなと痛感しました。

2 この遠征で経験したこと

①自分自身どうであったか

自分自身、今回の強化合宿でジュニア・ナショナルチームや、永東高校、済州大学と5回対戦したわけだが、試合なんか実際やってみて、自分のプレーをフルに出せなかった。というのは、韓国選手のディフェンスは、ピストンの激しい積極的な防御で、日本の高校の試合みたいに一対一なんか簡単にフェイントをかけさせてくれなかったし、ディフェンスの前のプレーがきついためにパスも通しにくかった。

それに、一枚壁を抜いてシュートに持ち込む所まで行ったけど、ディフェンスのプレッシャーが強かったためにキーパーと納得いく勝負ができなかった。これも自分の能力のなさで、シュートを打つ前のステップが弱かったためだと韓国選手のプレーを見てそう教えられました。

速攻なんかは、自分は結構展開できた方だと思うけど、やっぱりディフェンスのバックが速かったために、相手につかまれたことも何度かあった。

ディフェンスに入っていて、自分自身常にハンドアップして守ってたけど、何回かスキを狙われてカットインされた。これは、自分のオフェンスに対しての集中力と予測が足りなかったためだと思う。また、これを逆にスキを狙ってカットインされて、実際自分が守っていて抜かれたということを材料にしてディフェンスの真理を考えながら、これを自分が攻撃する武器にしたい。

②チームは今後どうあるべきか

チーム全体が、今回の強化合宿で韓国のチームがどういう風なムードで練習や試合に取り組んでいるかということを肌で感じたのだから、次回、強化合宿や公式試合がある時には、一人一人がハンドボールに対する姿勢をまず変えていき、そしてムードを高めていき、チームの目標というものを一つ一つ果たしていかなければならないと思う。

相馬栄司

1 韓国ハンドボールを見ての感想

今回、韓国と試合をして思ったことは、韓国チームと日本のジュニアとでは、第一にハンドボールに取り組む姿勢が違い、何よりもハンドボールを心の底から愛していると思う。

プレーでは、一人一人個人技を持っている。たとえば、背が低い人は低いなりに足が速く、背が高い人はロングシュートを確実なものにしている。

日本が韓国のプレーを使うには、この先何年もトレーニングを積んでいかないとできないと思う。しかし、日本が勝つにはこれからやっていかなければならないと思う。

2 この遠征で経験したこと

①自分はどうだったか

自分は試合にはそんなに使ってもらえなかったが、印象に残ったことは、韓国のフェイントである。日本とは違って、完全に一人ディフェンスを抜いている。

自分もこれからハンドボールをやっていく中で、韓国のよいプレーを真似してやっていきたいと思う。

②チームはどうあるべきか

ミスをしても、してしまったことはどうしようもないことだからミスした後の処理だと思う。ミスをして下を向いて帰ってくるようなら、よいペースが続いていたとしても悪いペースになっていくと思う。

MIZUNO
THE WORLD OF SPORTS

SINCE 1906
ボクら、万有引力とたわむれる

コンケーブ意匠

ヘリボーン意匠
サイドモーション サポートリブ
ピボットリング
フレキシブルゾーン

パワー効率重視。コートのマシン〈ランバード〉

室内コート専用のマルチファンクション ソール。

前後左右、あらゆる方向へのトラクション性にすぐれたヘリンボーン意匠をベースに、かかとには着地時の衝撃を吸収、分散するコンケーブ意匠を配置。また、ソール前半にはパワーロスを防ぐサイドモーション サポートリブ、回転運動の軸となるピボットリングをはじめ、屈曲性を高めるフレキシブルゾーンなどをレイアウト。多様なプレーに対応するソールパターンが生まれました。

〈ランバード〉ハンドボール シューズ

《ウイング ショット》¥12,000

● 甲/牛革 ● 補強材/人工皮革 ● 底/ラバー ハーフ シェル ソール
● カラー/16KH-1527 ホワイト・レッドにメタリックネイビー ライン
/16KH-1562 ホワイトにレッド ライン



昭和61年度 国際審判員 研修会報告

日　時　昭和61年12月26日～27日
場　所　渋谷東武ホテル会議室
出席者　岡前、光島、斎藤、福田、千野、島崎、上久保、北井、井上、島田、岡本、中本、川島、森、後藤、清水、菅野、半田、大塚。

1、グッドウィル・ゲーム報告（岡本・清水）

大会要項では帯同レフェリーということで参加したが、大会役員の説明ではレフェリーはチームが参加していない国から招いたとのこと。一体どうなっているのか…。

参加したレフェリーは、スウェーデン・チェコスロバキア・ユーゴスラビア・地元ソ連であった。

〈判定について〉

1、キックボール
各国で差があったが、スウェーデン・ユーゴスラビアは日本と同じ解釈であったが、ソ連では足に触れた場合にはすぐ反則と判定していた。

2、オーバーステップ
ヨーロッパと日本では若干差が感じられた。両足を同時に着地したとき、左右の足の瞬間的なずれ（バタバタ）は1歩と数えていた。

3、罰則の段階的適用
国ごとのペアーでかなり差が見られた。ソ連ペアーが最も甘く、スウェーデンペアーが最も厳しかった。しかし、いずれも基準が一定で違和感はまったく無かった。

身体接触に対する判定が、予想していたより厳しくなかった。これはレフェリーがラフプレーを許していた訳ではなく、選手自身がボール中心にプレーしていること。また、多少の身体接触でもボールと身体の自由を失わないので、プレーを中断させないことが最重要視されていることとの結果であると思われる。

ユーゴスラビアのレフェリーに罰則の段階的適用について質問した。「ルールブックどうりである。同じ反則を繰り返せば警告、そして退場となる。これはチームメイトも同じである。しかし警告や退場を与えるかどうかは、レフェリーのタクティクスである。」

〈今後のために〉

審判界の国際化のため日本協会とIHFに太いパイプを作る努力を……。ソ連でさえ、自分たちはヨーロッパのはずれなので、情報がよく伝わってこないし、各種大会に笛を吹く機会が少ないと嘆いている。まして地球の裏側の日本で、もっと努力をしなければとりのこされるだけである。

最後に、今大会の審判を観察して、一番感じたことは各ペアーが必ずしも共通の基準で判定していないということである。それでもゲームはスムーズに運営されていた。これは、各ペアーが個性を十分に発揮しながらも卓越した管理能力によってゲームを運営しているためであり、ここにレフェリーの真価が問われているからではないだろうか。しかし、我が国では、レフェリーの善し悪しが一つ一つの判定によって評価され、全体的な運営能力が見落とされていないだろうか。この意味において良いレフェリーを育てるために十分検討すべきである。

2、アジア大会報告（千野・後藤）

千野—後藤と新ペアーのため意志の統一をはかるため、全日本男子の合宿、日本リーグ、インターハイ、関東学生リーグ、来日中のチェコ、ユーゴ戦等20ゲームを担当し見解の統一を計った。

レフェリーミーティング（AHF　アリ・アブル……バレーン）

＊オフィシャルとのコンタクトをしっかりとる。

＊レフェリーの間のレベルの違いを少しでも埋めること。アジアとヨーロッパの違いがあっても困る。共通の理解と確認をして欲しい。

＊レフェリーの割当は、前日発表するので確認のサインをする。

＊ジェスチャーは観衆の多いときはもっと派手に演出するように。……（デンマーク）

＊西アジアと東アジアと解釈が違っていた。

・スカイプレーでトリプルスカイは認めない。（GKに影響あり）

・キックも足に触れた時点で反則としていた。

・アドバンテージについてもクウェート・レフェリーはまったく見ずに、反則があればすぐに笛を吹いていた。

＊ベンチ規定は非常に厳しかった。

＊デンマーク・レフェリーのゲームの運営のうまさが目立った。選手同士エキサイトする

と、実ににこやかにその近くにいっておさめてしまう。このあたり日本人に最も欠けるところか。

しかし、彼らにもミスがあり、それを指摘すると、実にすまなさそうに、あのときはこう処置すればよかった。と実に紳士的。

これとは逆にクウェート・レフェリーはなにをいうか、俺達の位置が一番良かったのだ。とくってかかられ、さすがのアリ・アブルしも怒る。

＊シュートの着地、ペナルティーの足の引きずり、などもっと良く見たほうが良い。（デンマーク）

＊スローオフはセンターラインの中央からきちんと行わせる。

＊エリア前のこぜり合は、とても早く処理していた。同時にイエローカードも出していた。

以上の報告に関して多数の話題が出た。

国際審判員として1年間活動し要望・問題点をあげ今後の活動に生かしたい。

A：レフリングの流れとしては、両報告のとうりだと思う。個人的なことであるが、ペアーがいなくなり、新しいペアーと吹いているが、身体接触等で、二人の見解、コンビがしっくりしていない。また、30×30分の緊張が持続できるよう頑張りたい。それから審判員はもっと自信をもって笛を吹くように、ゲーム中に頭が下がっているものがいる。

B：今年はインターハイと全日本総合を担当したが、特にインターハイでは罰則の段階的な適用にバラツキが見られた。これは、日本協会からの指導が抽象的なので明確な事例を出してもらいたい。また、ビデオなども作ってもらいたい。

★：具体的に事例をあげるのはむづかしい。日本人はどこまでとか、どのくらいとか……。ビデオも研究しているがいいものを作るのに何百万円もかかる。結局IHFやヨーロッパで作られたビデオを買うのが手っとり早い。

C：各県の審判長が罰則の段階的適応がまだ理解不足なので、地方によって解釈がかなり違う。日本協会審判部が地方に行ったり、全日本大会前の審判会議のやり方を変えてみてはどうであろう。

D：反則が許せるのか、という単純明快な共通理解で、審判と監督がより高度なハンドボールの発展を目差していきたい。

また監督達の意見もまとめ、それも参考にしていきたい。

E：日本人レフェリーがワールド・レフェリーにノミネートされているという報道があったが、駄目になってしまったようである。どうして駄目になったか知りたい。

F：次の2つの事を目標に掲げ自分なりに努力している。

(1)接触プレーに関してのさばきかた、見極めかた。

(2)パッシブプレーに関してユーゴチーム監督の話で、特に退場者が出たとき、退場者を出したチーム、またその反対側のチームにもパッシブプレーがあったので注意したほうが良かった。

G：ゲーム中に集中力がなくなるときがある。特にこのようなとき、身体接触があると判定が甘くなる。まだまだ努力しなければならない。

H：審判部門と、技術部門がそれぞれ考えているハンドボールの理念を話す公式の場がない。是非日本協会に技術部を作ってもらいたい。

それからペアーの片方が引退？して新しいペアーができたり、アジア大会ではペアーが分解させられ、新しいペアーで行ったり、一体ペアーとは何なのかたいへん疑問である。

I：昨年、その前と全日本総合では、退場者がすごく多かったが、今年はそうではない。それはレフェリーがラフプレーをかなり強引に掃除したからではないか。現在は接触プレーでレフェリーを悩ましているが、セームプレーが、もっとあるのではないか。またディフェンスがチャージングを誘っているプレーがかなりあるが、レフェリーはそこをしっかりと見極めないといけない。

J：日本協会に技術部を設置するように要望したい。例えばパッシブプレーとかチャージング・罰則の段階的適用とか、そのようなことは審判部だけで決めていいのだろうか?。もっとトレーナーたちの意見も入れて新しい日本のハンドボールを作り出していいのではないか。

それから各種全国大会を見て感じたことは、タイムアップ寸前のタイムアウトをとるケースがかなり見られるが、点数が開いていればさして問題はないが、同点のときや、1点差のときにはタイムアウトをとるとボールを持ったチームがすごく有利になるのではないか……。このあたりまだ研究する余地があると思う。

この後、アジア大会デンマーク・ペアー担当のビデオを見ながら研修した。

昭和61年度 日・韓ジュニア交流競技会報告

代表／中西 敬一

期日 昭和61年8月19日～25日
場所 韓国・済州島（済州市）
参加種目 ハンドボール（男、女）、バスケットボール（男、女）、庭球（男、女）、軟式庭球（男、女）、卓球（男、女）、バドミントン（男、女）、ラグビー、サッカー以上8種目。
参加人員 本部7名、種目代表8名、監督、コーチ20名、選手127名。

8月19日、13時大阪国際空港集合、15時大阪発釜山経由にて17時40分済州空港着。諸手続きをすませ韓国側役員、ブラスバンドに迎えられ18時40分宿舎フリーポートホテル着。あわただしい夕食をすませ20時30分日本側役員打ち合わせ会議。

8月20日、10時～11時30分より両国種目別代表者会議、日本33名、韓国55名。総合開会式、種目別スケジュール、ルール、親善の夕、研修旅行などについて打ち合わせ。13時～16時30分試合会場となる漢拏体育館にて練習。座席6千、円型の素晴らしい体育館。選手たちも明日からの試合に備え思いきり汗を流し体調を整える。

たまたま小学5～6年の男子の練習を見る機会を得たが、これが小学生かと思われる身体のこなし。スタミナ、ボールさばき、シュート等々ただ見とれてしまう。と同時にそら恐ろしい感じを受ける。

18時～19時30分、役員、選手550名が参加し親善の夕が催され、なごやかな雰囲気のなかお互いに健闘をたたえ合い閉会。

8月21日 第1試合
開会式後直ちに女子の試合のため8時30分出発、9時よりアップ開始。

10時より漢拏体育館にて日・韓参加種目の役員、選手全員の入場行進にて開会式。終了後済州市立民俗芸術団による民俗舞踊の公開演技、予定より15分おくれて試合開始。開会式直後4千人の観衆が見守る中、男女とも、おくすることなく善戦し会場を大いに湧かす。

午後、宿舎にて入念なミーティング、休養。

8月22日。午前中練習、午後済州道民俗自然史博物館見学、今昔の生活様式の移り変りについて垣間見ることが出来た。

8月23日第2試合目。

第1試合の経験を生かし好試合を展開するも残念ながら男子2敗、女子1分1敗の結果に終る。

両試合を通じ、女子についてはあまり差はないようだが、男子においては走、跳、投あらゆる面でかなりの開きを感じる。今後はより以上に基礎体力、技術の向上に努めなければ益々差をつけられるのではないかと痛感する。

韓国1位の昌文女子、男子永東高校は韓国で一般的に行われている部活の形式によりハンドボールを重点種目とし、常時体育館で練習出来るという恵まれた状況にあり、日本と取り組み方が違うことも強くなる大きな要素であろう。

8月24日 済州島一周の研修日。
9時、5台のバスにて8時間行程の研修の旅に出発。20年程前に発見されたという萬丈窟、日の出が世界で一番奇麗に見えるといわれる標高180mの城山日出峯、急な坂を汗をふきふき頂上へ。いささかへばり気味。昼食をバスの中ですませ、西帰浦天池渕瀑布―三段に分かれている中文天帝渕瀑布を見学。最後に市内でのショッピングをすませ無事研修の旅を終る。

開発進む済州島…日・韓ジュニア交流を引き受けるだけあって公認陸上競技場、野球場、体育館、屋内50mプール、ラグビー、サッカー兼用グランド、テニスコート10面と広大な敷地に素晴らしい施設、また新空港、レジャー施設、ホテル、大きな通路等々整備が進み、今後益々発展することであろう。

8月25日 帰国。
8時ホテル発、10時の便で釜山経由12時55分大阪国際空港着。

出発から帰国まで、生活面、試合態度すべての面において日本代表にふさわしく素晴らしかった選手の皆さんに対し、監督、コーチの先生は勿論のこと心から感謝申しあげます。

海外遠征で一番気づかわれていた病人、一件の事故者、トラブルもなく、天候にも恵まれ全員初期の目的を果たし無事帰国出来たことを役員一同喜び解散。

ただ台風13号の影響で沖縄便が欠航、コザ高校チームが25日、26日と福岡で足止め、27日無事帰縄したことが唯一のスケジュール外の出来ごとでした。

最後になりましたが、このたびの訪韓に対し御支援、御鞭撻いただきました皆様に感謝申しあげ報告とします。

コザ高校監督・仲西 弘

第14回日・韓ジュニア競技会は、

韓国・済州島で8月19日より25日まで開催されました。本校男子チームは静石航空工業高（韓国2位）、永東高（韓国1位）と交流試合を行いました。結果は、静石31―26コザ、永東40―20コザと敗れましたが、韓国チームのハンドボールレベル、技術などたいへん勉強になりました。ジュニアナショナルに選ばれているという188cm台の大型プレーヤーがジャンプ力を生かして打ち込むシュートには迫力がありました。また、全体的にスピードあるプレーが目をひきました。9月20日のアジア大会をひかえ、88年ソウル・オリンピックに向けて国をあげて取り組んでいるムードが街のいたる所に感じられました。

試合前日の親善の夕べには、両国チームの選手、役員が一同に顔をそろえ交流会が行われました。食事をとり、歌を唄ううちに両国選手がうちとけて話し合う光景は素晴らしいものでした。このような体験は、生徒たちにとって長い人生の中で貴重な財産になることでしょう。また、東京韓国学校から通訳として10人の生徒たちが同行しました。朱漢福くんのおかげで韓国選手、役員との意志疎通がスムーズにできました。帰国前日の済州島旅行も素朴な街並も、風習など親しみを感じる思い出に残る一日でした。

この遠征に際しては、日体協の皆さん、ハンドボール団長の中西先生、小松市立女子チームのメンバーに色々お世話になりました。この日・韓ジュニア交流競技会が今後も益々発展されることをお祈りして報告を終ります。

男子の戦評

コザ高校コーチ・伊禮三之

第14回日・韓ジュニア総合競技大会の第1戦は、韓国2位の静石航空工業高校との試合であった。開会式直後の試合のため地元の観客も4千人近くを数え、選手も緊張した面もちを見せていた。開始早々、硬さのためオーバータイムをとらえ、先行きを心配させたが、徐々にコザの持ち味であるコンビプレーや中間速攻が決まりはじめ、前半20分までスコア10：10の緊迫したゲームを展開した。結局12：15で前半を終了。後半、11分過ぎ20：21と1点差まで詰め寄ったが、コザのディフェンスの甘さが出て、11番Cheong, Joo Seongの速い動きからのフェイントなどにかわされはじめ、徐々に点差を引き離された。最終的には26：31のスコアで惜敗した。

静石 31（16 15 ― 14 12）26 コザ

永東 40（20 20 ― 10 10）20 コザ

第2戦は、韓国1位の永東高校との対戦で、韓国ジュニアナショナルチームのメンバーを3名も含み、平均身重も180cmとコザを7cmも上回る高さのチームであった。試合は終始永東高校のペースで進んだ。コザの攻撃は、ことごとく高いブロックに阻まれたが、逆に、永東の高い打点からのシュート――身長もあるうえに、ジャンプ力にも優れ、さらに、肘を高く上げたところのシュートには、スピード、威力ともに素晴らしいものがあり、なすすべもなかった。特に、ナショナルメンバーの6番Lee, Jae Ok、8番Lee, Seok Wang、9番Kim, Jeong Hoのプレーには目をみはるものがあった。コザは、神里が気をはいたが、すべての面で上回る永東高校には及ばず、結局、20：40のスコアで完敗であった。

ソウル・オリンピックを控えた韓国チームの気迫を目の当たりにし、大変勉強になった試合であった。

最後に、通訳の朱漢福君や、台風のため福岡で足止めをくい、その世話までみていただいた中西敬一先生には感謝の意を表します。

コザ高校・3年 神里 太

今回の韓国遠征にあたって大きな不安と期待があった。それは、自分たちのプレーがどこまで韓国のチームに通用するかということであった。なぜなら、韓国はソウル・オリンピックを2年後に控え、高校生にもナショナルチームのメンバーがいると聞いたからです。日本はこれまで韓国に1勝もしたことがないということで、よけいにプレッシャーがかかった。しかし、これらの不安の韓国についた時、みんなで気迫だけは負けないでおこう。コザ高校の持ち前のチームワークのよさと元気さで相手を圧倒してやろうと話し合い、打倒韓国ということで意気込んだ。

8月21日、韓国2位の静石高校の試合である。試合開始直後、オーバータイムをとられてしまった。このことで、試合の流れが韓国に傾かないか心配であったが、10分すぎまで1点を争う好ゲームである。そして15分すぎごろ自分たちチームが2点リードした。このままリズムに乗って行けば、十分もっていけるのではないかと思った。しかし、自分たちのミスが続き、相手にリードされ結局26対31で負けてしまった。負けはしたものの、韓国のチームに自分たちのプレーが通用し、接戦の試合ができたことで、次の永東高校との試合に自信をもってのぞむことができた。

しかし、試合をやってみると韓国の一方的な試合になってしまった。永東のチームには3名のナショナ

ルチームのメンバーがいて、文字通りその3名の選手はすごかった。ロングシュートを正確なまでにコーナーをついて決めてくる。その上大きな体だが、フェイントがとても速かった。

試合は20対40の大差で負けてしまい、とても悔やしかった。この試合ほど長く感じた試合は初めてだった。

今回の日・韓交流競技に参加することができ、とても光栄に思います。自分は今回の遠征で多くのことを学び、また自分の持っている力をだすことができ、本当に良かったと思います。

今回の遠征に、ただ行っただけで終らせないためにも、遠征で見たこと、感じたことなど、いろいろな体験をこれから将来に役立てていきたいと思います。

小松市女高監督・谷口俊春

昨年新チームを結成したとき、このチームが私の22年間の監督生活最後を飾るチームであり、総決算の意味で指導してきました。

昨年からの中国遠征では中国ジュニアと1勝1敗で分けているだけに、今回の日・韓ジュニアも相手国のコートでの対戦だけにいろいろとハンディがあることはすでに計算済みであったが、結果的にはこれも引き分けに終り、今一つ不満足は否定できませんでした。まだ国体を残しているが、国内の高校界での無敗はこのチームに限り当然と思っています。

日・韓戦、日・中戦を戦ってみて、両国の小学校から大学、社会人までの寸分の誤差のない指導スケジュールと、日本のそれに比較して淋しい気持になるのは私だけではないでしょう。我田引水でなく、特に女子指導者の大局的立場で指導しない限りアジアの孤児になることとは時間の問題ではないでしょうか。このことが私ひとりの偏見と杞憂であることを念願しています。

いずれにしろ、山梨国体を最後に監督から引退いたしますが、一歩後退したところからハンドボールを愛好していきたいと思っています。

本誌面をおかりしまして22年間御世話になりました皆々様に衷心より感謝申しあげます。

小松市女高コーチ・上田勤

女子試合経過について

▼第1戦

小松市女 25（11−14、14−12）26 釜山女商

釜山女商5番のカットインや、4番のロングシュートをはじめとし、ハーフ速攻からのパスアンドランのつなぎも早く、小松市女のミスから着々と点を重ねていった。一方小松市女は相手のマンツー気味のディフェンスに対し、足がとまって攻撃ができない場面がよく見られた。しかし、林、松田の多彩な攻撃や、千秋の速攻などで追い上げたが、1点差で小松市女が惜敗した。

▼第2戦

小松市女 25（13−12、12−13）25 昌文女子

昌文女子の高い打点でワンフェイントからのミドルシュートが得点に結びつき、前半は接戦となったが小松市女が1点リードで終了。

後半立ち上がり、昌文女子が8点の連続得点で、一時は7点差となり、勝敗がついたと思われたが、小松市女が猛追、再び1点を争う接戦となった。残り3秒PTを取られ第一戦につづき、また1点差で敗れるかと思われたが、GK岩井が好守、引き分けとなった。

「日本ハンドボール史」完成

日本ハンドボール協会の50周年記念事業の一環として編集作業が進められてきました、「日本ハンドボール史」が、この程完成しました。Ｂ５判で880ページに及ぶ大冊で、これまでの国内外の主要大会の成績は勿論、日本ハンドボール界の歩みをすべて網羅したものです。まだご予約なさってない方は、急ぎ日本ハンドボール協会事務局までお申し込みください。

いつも"ワンパク"な子供でいたい。



スポーツ安全保険

5人以上のグループでこの保険に加入できます。

保険料(年額1人あたり)

- ■スポーツ少年団、子ども会など中学生以下の子どものグループ **350円**
- ■文化活動、奉仕活動のグループおよび高齢者のスポーツグループ(ゲートボールなど) **600円**
- ■ママさんバレーなどの地域スポーツグループ、高校の運動部および大学・会社などのスポーツ同好会など **1,050円**

注:ほかに学生連盟、実業団連盟に所属する団体の加入も扱っています。

補償の内容

傷害保険	死亡・後遺障害	最高 1,200万円
	入院(1日あたり)	3,800円
	通院(1日あたり)	1,200円
賠償責任保険	支払限度額	対人 5,000万円 対物 100万円

対象となる事故

■グループ活動中の事故　■往復途上の事故

保険期間

昭和62年4月1日より翌年3月31日まで(申込受付は3月から)

加入申し込み、資料の請求、お問合わせ

スポーツ安全協会各都道府県支部(主として教育委員会保健体育課および体育協会)、東京海上火災保険㈱の営業店にご照会ください。

(財)スポーツ安全協会

東京都渋谷区神南1-1-1岸記念体育会館 TEL(03)481-2431(代表)

第10回アジア大会に参加して

レフェリー／千野恒夫・後藤　登

＊1986年第10回アジア大会は韓国で実施された。ハンドボールが正式種目となって2回目、大会はまだ男子だけで、アジアの普及は今一歩の感である。

大会前に送付してきたマニュアルでは12チームの参加で、大会の予定が組まれていたが、二転三転して結局は6チームのリーグで実施するという通知が届いた。その為、大会期日も大幅に変更されて結局9月20日成田発ＫＡＬ703便で出発、9月29日帰国の日程が組まれた。

＊今回レフェリー行は、永年のペアレフェリーでの編成でなく、千野―後藤ペアでの参加である。連絡を昨年1月に受けたが、2人はこれまで互いに相手の、レフリングは見てはいたものの実際にビッグゲームを吹いた事がなかったので、3月の全日本男子の合宿に出向き紅白戦や実業団チームとの練習試合を、6試合担当させて貰い、終って全日本監督・コーチ・選手陣との意見交換などの研修を手始めに、岐阜での日本リーグや徳山市での全国高校総体、関東学生リーグ、またヨーロッパから来日したチェコ・ユーゴとの親善試合を3試合など延べ20ゲームに及んだ、お互いにレフェリーが終わると判定のこと、ミスの原因について厳しい意見を出しあってミーティングにも万全を期して臨んだ。

日本選手団と同様の厳しい使命感を重く感じ、成田を出発した。

＊鈍よりした雲間から見え隠れしている、眼下のソウル市内今頃は開会式が行われている頃かな、雨模様の中で気の毒だ、など語っている内に無事到着。

日本にいる時に金浦空港での爆弾テロ事件は、ニュースで報道され厳重な警備などテレビで放映されていたので予想はしていたが、その凄さは大変なものであった。マニュアルには、同封したステッカーを荷物にはっておきなさい、アジアファミリーゲートが用意してあり入国手続きにも便宜を計ります。と書いてあったのだが、荷物の一つ一つを丁寧に調べられてやっと入国。

ファミリーゲートからシャトルバスの間や、バスの中まで安全乗員の腕章を付けた方がたが警護していた。組織委員のあるホテルまで行きやっとの事で、ＩＤカードを作成してもらい、割り当てのホテルへとタクシーで移動したが、驚いた事にここでもまたすべての荷物を検査させられた。側には開会式帰りの友人の韓国の審判が居ても、金属探知を当てたりして、黙々と検査していた。

ホテルの入り口では銃を持った警察官は勿論の事、各フロアーにも常時2名私服刑事が警備しており「あなたがたはＶＩＰとしてお迎えしてますしっかり警護いたします」と笑顔を忘れない皆さんに敬意を感じた。

アジア大会という国家的行事であり、つぎの88オリンピックを控えまた南・北問題もあり無理のない事情とは知りつつも慣れてない私どもには、過剰警備にただただ驚きの連続であった。

＊韓国の顔見知りのレフェリーの暖かい歓迎を受け、デンマークからゲストレフェリーや、本大会の帯同レフェリーの紹介を得た。彼らは選手団と共に訪韓しており、シャムシィル競技場で開会式を見て来たそうだ。

紹介を受けると直ぐに、和気相合いにうち解けて友達になる、いつものパターン。我々の部屋が、他の国の人たちの部屋より大きいので、いわゆる溜り場みたいになった事がしばしばで、ゆっくりと歓談する事が出来た。

＊今回のレフェリーは、参加国から帯同という形式で4ペア、招待レフェリーが1ペア（デンマークから）、また参加6チームの関係で開催国でもう1ペアを推薦し、計6ペアで担当する。韓国2ペアは、昨年の世界ジュニアの折りの人たちで、他の人たちは初対面の方々であった。

……………

＊21日は終日フリーだったので、韓国の黄（Whang）レフェリーの案内で、日本チームの応援に行こうではないか、既に実施している種目を捜しバレーボールチームの応援に出かけた。日本円にして、1000円の入場券を買った。会場は大学の体育館であるが、例によって厳しい警戒の中を強制的にバスに乗らされて会場に移動した。入り口は、券売り場同様、長蛇の列であった。各自のＩＤカードを提示して、日本のゲーム中だったので横から失礼して入場させてもらった。新築して2年目、これが大学の体育館？ ２０００名を収容する客席があり、驚く程の素晴らしいものであった。会場では日本からの応援ツアーの一団が、なんとバス二台をチャーターして来韓していた。大変失礼だが、対エジプト戦で1セットを取られたり、試合の迫力はいま一歩。Ｗ-Ｃｕｐで欧州に主力は行き、大学生主体の二軍クラスの選手に、この様に多くの応援団が押し寄せて来る。バレーボールの人気にはただただ敬服してしまった。

ハンドボールも早くこのような人気競技になってほしいと願ってやまない。

＊バレーボールの観戦からホテルに帰ると、競技役員用の背広などが配付された。既に出発前に韓国協会に寸法を連絡していたので、どうにか身体にあったのだが、ワイシャツの腕の長さが、左右片ちんば、帽子の大きさは全く合わず閉口していたら、「心配いらない、ユニホームセンターに行こう」ということになり、市内観光を兼ねて出かけた。カービン銃を肩にした警察隊の警備するセンターには韓国協会の一人が入場を許された。周囲は閑散とした郊外地に広大な工場から配送センターまでの設備を造り、オリンピックに備えているのだと、誇らしげに語る韓国の人たちの顔が印象的であった。配

付頂いた物は、帽子、背広、ズボン、ワイシャツ、靴下、白シューズ、審判着一式、以上の物をすべての種目のレフェリーに配付したのだから、大変なものである。

……………………

＊22日…14：00―16：00 Team Representative of Meeting, Hotel tower.
16：00―17：30 Referee Meeting, Hotel tower.

アジア大会の運営に当たる人たちは、別紙の通りで、日本からの関係者は一人もいない。その上クウェートのモハメッド・アリ・アブル氏によってすべてが回転されていると言っても過言ではない。（以後、アリ・アブル氏と略す）

立会人の西独・リンケンバーガー氏〔Cecretary General of IHF〕は、私どもに Mr. 光島は来ないのか？ と不思議がっていた。光島氏はアジア地区IHFの講習員ではないのか。どうして来ないのか？ と語るのはどんな意味があるのか、来ているのは当たり前という事か！ となるとこの件は検討頂く大きい問題だ。

アジア連盟の審判長は、いったい誰なんだろうか？ 連盟結成時は、たしか日本の安藤氏が当たっていたのではないのか？ 4年前の9回目からの参加のハンドボールだけに、今回2回目。まだまだしっかりとした組織が出来ないのかどうなのか。アリ・アブル氏の独壇場みたいに見えた大会の運営を見ていると、このままでは、なかなか普及もしないだろうと会議の席でその感を強くもったのだが、日本もAHFの指示待ちでなく積極的に金も使いアジアをリードする位に動いて欲しいと思うのは我々だけではないであろう。

……………………

＊ミーティング内容概略

（アリ・アブル氏の司会進行）

〇チーム代表者会議（他国は協会代表とチーム監督、日本は監督のみ出席）

・ Mr. Kim Chong-Ha (Korea) はKOCとKHFの会長で多忙のために、副会長 Mr. Shin Gil-Soo が開会挨拶。

・各国の自己紹介

・会 議（大会要項の全般にわたり確認したが、その中で特に感じた点について紹介する。）

＊ルールについては、IHFのルールに従って行うのだが、ルールの解釈に不一致が生じた場合は、ドイツ語版ルールブックを適用する。ルールでカバー出来ない予測外の事については OCA（Olympic Council of Asia）で処置する。ルールの適用の疑問点はIHFに答えを求める。

＊チームの取り消しに関する規定では、ゲームが始まってからの後にチームの引き退いた場合は、関連するチームにより行われた試合は考慮の外におかれる。

＊競技については、single round robin system、1回総当たりで勝てば2 point、負ければ0 point 引き分け1point。

・同じポイント数での順位は、a引き算による、高い得失点差。bより高い得点数。cそれらのチーム間での試合結果。

＊競技場 Suwon Gym の案内 選手村から45㎞、1時間。

＊スコアボードには、国名・時間・得点を標示する。

＊競技者への案内、・ロッカールームや練習コート。

試合コートには担当レフェリーの後に付いて入場、

1、アナウンスによる選手紹介 2、両チームのペナント交換 3、コイントス 4、試合前の練習

＊抗議については、英語の書面にて大会委員会、懲罰委員会にたいして、試合終了後1時間以内に100USドルまたは同額の供託金を添えて提出せよ。抗議が有効と考えられる場合は、供託金は返還されるがさもなければAHF口座に没収される。

次の事項の抗議は認められない。1、試合の場所・日時・時間 2、レフェリーの任命 3、IHFに合致したレフェリーの決定。……これらに対する抗議については、翌日の15時までに決定して報告される。などなど抗議は提訴の項が確認された。

・ユニフォームの調整（各国のカラーを発表して、調整をした。）

・記念写真撮影

・IHF及びAHF代表挨拶

・閉会のことば

※以下、レフェリーミーティングについては、省略させていただきました。

各地の記録から・・・

東北

第29回宮城県総合選手権
（11月20～30日／仙台市体育館他）

〈男子〉

▼1回戦
東北高 22－11 名取北高
仙台二高 23－16 宮城工専

▼2回戦
塩釜高 20－12 泉松陵高
仙台南高 30－16 仙台商高
古川高 22－17 仙台西高
仙台育英高 20－5 仙台三高
向山・育英ク 39－18 学院大工学部
白虹会 29－12 宮城広瀬高
古川商高 27－21 古川工高
東北大ＯＢ 39－13 宮城水産高
古川工ＯＢ 34－17 東北電子工
仙台南ＯＢ 24－14 泉館山高
佐沼高 22－11 向陵ク
東北大 27－18 名取北ＯＢ
福祉大 24－15 塩釜高ＯＢ
宮城教員 41－15 東北高
仙台大 51－6 仙台二高
育英ク 30－22 宮城教大

▼3回戦
東北大ＯＢ 33－13 仙台南高
仙台育英高 20－12 古川高
古川工ＯＢ 34－15 向山・育英ク
古川商 31－28 福祉大
佐沼高 20－16 仙台南ＯＢ
仙台大 26－18 東北大
育英ク 24－23 白虹会
宮城教員 47－14 塩釜高

▼準々決勝
宮城教員 25－19 東北大ＯＢ
古川工ＯＢ 19－11 仙台育英高
仙台大 34－26 古川商
育英ク 29－23 佐沼高

▼準決勝
宮城ＯＢ 30－26 古川工ＯＢ
仙台大 26－24 育英ク

▼決勝リーグ
東北学院大 30（17－12, 13－14）26 仙台大
仙台大 31（16－15, 15－12）27 宮城教員
東北学院大 29（15－13, 14－12）25 宮城教員

〈順位〉①東北学院大②仙台大③宮城教員

〈女子〉

▼1回戦
朴沢高 13－3 塩釜女高
宮城三女 14－4 仙台女商
泉館山高 9－5 仙台西高

▼2回戦
聖和ク 12－0 築館女高
涌谷ＯＧ 12－10 朴沢女高
宮城二女 16－12 全飯野川
福祉大 24－9 宮城教大
飯野川高 16－6 宮城三女
古川商 17－0 宮城一女
古川女高 16－14 名取北高
聖和高 29－0 泉館山高

▼3回戦
涌谷ＯＧ 18－17 聖和ク
福祉大 25－11 宮城二女
古川商 14－13 飯野川高
聖和高 22－3 古川女高

▼準決勝
涌谷ＯＧ 16－10 福祉大
聖和高 31－9 古川商

▼決勝
聖和高 22（13－4, 9－8）12 涌谷ＯＧ

第24回福島県高校新人大会
（11月21日～23日／福島市体育館）

〈男子〉

▼1回戦
学法石川 23－16 川俣
福島北 17－17 3PTC2 本宮
安積 23－10 安積商
福島東 28－8 福島
郡山 42－8 福島工
好間 20－13 郡山北工
須賀川 20－15 長沼
聖光学院 31－23 南会津

▼2回戦
学法石川 35－9 福島北
福島東 21－12 安積
郡山 29－16 好間
聖光学院 24－11 須賀川

▼準決勝
学法石川 14－12 福島東
聖光学院 21－10 郡山

▼3位決定戦
郡山 22－16 福島東

▼決勝
聖光学院 22（13－5, 9－7）12 学法石川

※聖光学院の優勝は、3年ぶり7回目。

〈女子〉

▼1回戦
石川 29－7 福島工
日本女子工 25－10 福島北
福島西女 12－8 福島女
安積女 13－12 東白川農商
本宮 31－5 深川
須賀川 26－5 川俣
緑が丘 46－3 小高商

▼2回戦
郡山女 22－15 石川
日本女子工 18－15 福島西女
本宮 16－10 安積女
緑が丘 15－13 須賀川

▼準決勝
郡山女 36－7 日本女子工
緑が丘 22－10 本宮

▼3位決定戦
本宮 23－12 日本女子工

▼決勝
郡山女 20（9－5, 11－8）13 緑が丘

※郡山女の優勝は4年連続7回目。

山形県選手権兼東根カップ
（12月6～7日／東根市民体育館）

〈一般男子〉

▼1回戦
真室川高ＯＢ 33－18 新庄ＲＣ
山形工高 24－11 東根工高

▼2回戦
真室川高ＯＢ 28－25 山形大
尾花沢ク 16－13 大東ク
山形新球会 41－9 東根球友会
新庄ク 19－18 大石田矢作会
山形工高 27－13 真室川高
日大山形高Ａ 20－15 新庄工高Ｂ
日大山形高Ｂ 26－15 大石田高
新庄工高Ａ 37－26 山形東高

▼3回戦
真室川高ＯＢ 29－9 尾花沢ク
山形新球会 29－21 新庄ク
山形工高 9－8 日大山形高Ａ
新庄工高Ａ 25－16 日大山形高Ｂ

▼準決勝
真室川高ＯＢ 19－18 山形新球会
山形工高 21－20 新庄工高Ａ

▼決勝
真室川高ＯＢ 28（12－9, 16－8）17 山形工高

※真室川高ＯＢは2年ぶり2回目の優勝。

〈女子〉

▼1回戦
米沢女高ＯＧ 22－10 竹桜ク
日大山形高Ａ 31－9 竹田女高
日大山形高Ｂ 20－13 米沢女高

▼準決勝
米沢女高ＯＧ 23－10 山形大
日大山形高Ａ 22－18 日大山形高Ｂ

▼決勝
米沢女高ＯＧ 31（14－6, 17－8）14 日大山形高Ａ

※米沢女高ＯＧは2年ぶり7回目の優勝。

第14回青森県秋季社会人選手権
（12月6～7日／青森市民体育館）

〈男子〉

▼1回戦
青森ク 39－23 八戸海上自衛隊第2航空群
七戸ユニオンＢ 31－26 北里大学

▼2回戦
青森教員 不明 青森ク
七戸ユニオンＡ 31－26 弘前大学
青商ク 53－26 青森陸上自衛隊
野辺地ク 45－23 七戸ユニオンＢ

▼準決勝
七戸ユニオンＡ 22－17 青森教員
野辺地ク 33－31 青商ク

▼決勝
野辺地ク 44（15－18, 18－15, 5－5, 6－4）42 七戸ユニオンＡ

〈女子〉

▼決勝

あすなろク 30 （18－7、12－10） 17 野辺地ク

関東

埼玉県高校新人大会

（11月16～30／浦和学院校他）

〈男子〉

▼予選リーグ

○A組
川口 19－10 科学技術
川口 29－11 浦和工
科学技術 32－8 浦和工

○B組
朝霞 31－21 草加
朝霞 31－13 熊谷
草加 27－14 熊谷

○C組
所沢緑ケ丘 25－15 上尾沼南
所沢緑ケ丘 21－15 鴻巣
上尾沼南 16－15 鴻巣

○D組
庄和 34－20 朝霞西
庄和 31－10 大井
朝霞西 22－9 大井

○E組
志木 26－23 富士見
志木 25－12 久喜工
富士見 30－26 久喜工

○F組
西武台 21－18 春日部工
西武台 32－12 西武文理
春日部工 32－13 西武文理

○G組
上尾東 26－18 大宮
上尾東 27－14 北本
大宮 33－26 北本

○H組
上尾南 27－19 狭山
上尾南 36－6 杉戸農
狭山 40－8 杉戸農

○I組
三郷北 32－10 小松原
三郷北 24－13 埼玉第一
小松原 16－16 埼玉第一

○J組
浦和南 24－17 川口
浦和南 23－11 戸田
川口東 17－10 戸田

○K組
大宮南 31－22 越谷南
大宮南 29－9 筑波大坂戸
越谷南 22－20 筑波大坂戸

○L組
春日部 30－21 大宮北
春日部 23－9 和光
大宮北 21－16 和光

○M組
東農大三 19－17 春日部東
東農大三 30－11 羽生一
春日部東 19－15 羽生一

○O組
城北埼玉 26－18 越谷西
城北埼玉 30－17 草加東
越谷西 24－16 草加東

○P組
埼玉栄 41－7 三郷工技
埼玉栄 26－4 秩父農工
三郷工技 17－13 秩父農工

○Q組
岩槻 30－15 秩父
岩槻 30－15 樋川
秩父 27－14 樋川

○R組
伊奈学園 26－10 所沢北

▼決勝トーナメント1回戦
川口東 30－11 越谷西
大宮南 31－5 春日部東
大宮北 23－17 県坂戸
埼玉栄 19－16 西武台
春日部工 21－18 三郷北
上尾南 15－14 小松原
朝霞西 32－17 岩槻
春日部 34－24 草加
伊奈学園 40－16 狭山
朝霞 20－13 東農大三
志木 29－15 春日部共栄
城北埼玉 23－18 川口

▼同2回戦
浦和学院 20－7 川口東
大宮南 51－11 三郷工技
大宮 29－15 上尾沼南
川口北 26－12 大宮北
城西川越 20－14 埼玉栄
上尾東 31－13 所沢緑ケ丘
春日部工 37－16 科学技術
川口工 36－10 上尾南
浦和西 24－12 朝霞西
春日野 31－12 秩父
所沢北 26－23 富士見
伊奈学園 21－10 浦和市立
川口青陵 27－14 朝霞
浦和南 31－12 越谷南
庄和 24－18 志木
浦和実 35－10 城北埼玉

▼同3回戦
浦和学院 19－18 大宮南
川口北 21－10 大宮
城西川越 10－9 上尾東
川口工 35－13 春日部工
浦和西 19－14 春日部
伊奈学園 23－7 所沢北
川口青陵 21－16 浦和南
浦和実 21－9 庄和

▼準々決勝
浦和学院 25－20 川口北
川口工 19－15 城西川越
伊奈学園 19－17 浦和西
浦和実 19－17 川口青陵

▼準決勝
浦和学院 23－18 川口工
浦和実 24－16 伊奈学園

▼決勝
浦和実 21 （10－8、11－8） 16 浦和学院

※浦和実は3年ぶり2度目の優勝。

〈女子〉

▼予選リーグ

○a組
庄和 16－9 朝霞
庄和 15－9 草加
朝霞 12－10 草加

○b組
小松原女 13－10 春日部女
小松原女 17－3 本庄女
春日部女 14－8 本庄女

○c組
上尾東 17－4 筑波大坂戸
上尾東 26－0 秩父
筑波大坂戸 17－12 秩父

○d組
浦和市立 13－8 所沢北
浦和市立 12－0 深谷一
所沢北 14－9 深谷一

○e組
越谷南 24－10 浦和商
越谷南 17－6 北本
浦和商 10－7 北本

○f組
熊谷女 28－4 狭山
熊谷女 21－4 春日部東
狭山 10－9 春日部東

○g組
草加東 17－13 行田女
草加東 15－14 八潮南
行田女 9－8 八潮南

○h組
戸田 10－5 志木
戸田 14－9 大宮南
志木 18－16 大宮南

○i組
浦和学院 15－9 浦和西
浦和学院 16－1 草加南

浦和西 15－3 草加南
○j組
伊奈学園 18－9 春日部共栄
伊奈学園 27－6 秋草学園
春日部共栄 20－5 秋草学園
○k組
八潮 15－5 和光
八潮 36－4 大宮開成
和光 15－12 大宮開成
○l組
大宮武蔵野 17－8 大宮北

▼決勝トーナメント1回戦
川口青陵 28－6 浦和学院
和光 9－3 志木
熊谷女 25－3 浦和市立
伊奈学園 14－3 川口東
川口北 11－6 越谷南
大宮武蔵野 20－11 大宮北
上尾東 19－6 庄和
浦和実 27－6 朝霞
行田女 11－10 浦和南
小松原女 22－6 狭山
所沢北 11－10 筑波大坂戸
羽生一 28－1 戸田
三郷北 21－8 草加東
浦和西 12－7 春日部共栄
八潮 35－1 浦和商
川口女 15－2 春日部女

▼同2回戦
川口青陵 31－3 和光
熊谷女 13－12 伊奈学園
川口北 20－3 大宮武蔵野
浦和実 15－14 上尾東
小松原女 10－8 行田女
羽生一 26－2 所沢北
三郷北 14－6 浦和西
八潮 9－6 川口女

▼準々決勝
川口青陵 34－5 熊谷女
浦和実 26－4 川口北
羽生一 39－7 小松原女
八潮 17－10 三郷北

▼準決勝
川口青陵 19－15 浦和実
羽生一 17－10 八潮

▼決勝
川口青陵 23（14－4, 9－7）11 羽生一

※川口青陵は2年連続2度目の優勝。

群馬県高校新人大会

（日程、場所不明）

〈男子〉

▼予選リーグ
○Aブロック
前橋 21－8 藤岡
桐生 19－4 藤岡
前橋 15－9 桐生
○Bブロック
前橋商 11－5 前橋育英
前橋育英 19－19 高崎工
前橋商 20－19 高崎工
○Cブロック
桐生工 12－8 玉村
玉村 16－15 下仁田
桐生工 17－16 下仁田

▼決勝リーグ
吉井 49－11 前橋商
桐生工 18－8 前橋
富岡 35－17 桐生工
富岡 41－10 前橋商
吉井 31－12 前橋
吉井 27－15 桐生工
桐生工 39－15 前橋商
前橋 15－13 前橋商
富岡 36－9 前橋
富岡 20－20 吉井

〔順位〕①富岡②吉井③桐生工④前橋⑤前橋商

〈女子〉

▼予選リーグ
○Aブロック
高崎市女 26－1 佐藤学園
高崎女 16－5 佐藤学園
高崎市女 17－1 高崎女
○Bブロック
桐生女 21－2 前橋商
前橋東商 12－10 前橋商
桐生女 27－7 前橋東商
○Cブロック
下仁田 25－6 前橋市女
桐生西 24－5 前橋市女
下仁田 10－7 桐生西

▼決勝リーグ
吉井 26－16 桐生女
高崎市女 12－10 下仁田
群女短大附 16－14 高崎市女
吉井 15－13 下仁田
下仁田 13－11 桐生女
高崎市女 15－13 桐生女
群女短大附 30－10 高崎市女
群女短大附 26－10 吉井

〔順位〕①群女短大附②吉井③高崎市女④下仁田⑤桐生女

北信越

富山県高校新人大会

（11月22～24日／富山市体育館）

〈男子〉

▼1回戦
新湊 11－9 富山商
氷見 20－13 高岡向陵
大沢野工 10－9 水橋
大門 17－16 伏木
富山工 17－16 二上工
高岡南 20－16 小杉

▼2回戦
八尾 29－8 新湊
富山東 22－8 富山高専
氷見 29－10 富山中部
高岡商 17－7 大沢野工
富山商 19－4 大門
高岡 24－5 富山工
呉羽 14－4 雄山
富山 21－11 高岡南

▼3回戦
八尾 34－19 富山東
氷見 27－14 高岡商
高岡 23－14 富山南
呉羽 23－21 富山

▼準決勝
氷見 33－17 八尾
呉羽 18－17 高岡

▼決勝
氷見 21（12－4, 9－8）12 呉羽

※氷見は3年ぶり20回目の優勝。

〈女子〉

▼1回戦
高岡女 12－6 高岡
高岡向陵 18－9 小杉
呉羽 9－4 富山女
雄山 17－4 新湊
有磯 21－0 富山女短付

▼2回戦
高岡商 26－5 高岡女
呉羽 18－13 高岡向陵
雄山 14－10 富山北部
有磯 36－3 高岡一

▼準決勝
高岡商 18－12 呉羽
有磯 30－2 雄山

▼決勝
有磯 20（9－6, 6－9, 3－1, 2－1）17 高岡商

※有磯は3年連続19回目の優勝。

近畿

第30回京都府高校新人大会

（11月1～30日／乙訓高、向陽高他）

〈男子〉

▼予選リーグ

○Aゾーン

城南 18－0 城陽
洛北 28－1 成章
城南 15－3 北稜
洛北 20－8 城陽
北稜 28－1 成章
城南 17－5 洛北
城南 22－1 成章
城陽 13－4 北稜
洛北 8－5 北稜
城陽 12－5 成章

○Bゾーン

京都西 32－8 宇治
桃山 25－2 南八幡
塔南 18－11 宇治
京都西 33－1 南八幡
南八幡 8－6 塔南
京都西 14－9 桃山
南八幡 17－9 宇治
桃山 25－12 塔南
桃山 48－6 宇治
京都西 28－9 塔南

○Cゾーン

乙訓 16－13 洛西
京都商 16－7 洛星
乙訓 15－9 京都商
洛西 21－12 洛星
乙訓 18－12 洛星
京都商 12－0 洛西

○Dゾーン

日吉丘 12－0 伏見工
久御山 26－7 洛水
日吉丘 15－15 久御山
洛水 13－8 伏見工
日吉丘 27－5 洛水
久御山 27－5 伏見工

○Eゾーン

桂 27－5 平安
西宇治 23－8 北嵯峨
西宇治 17－12 桂
北嵯峨 21－8 平安
西宇治 41－9 平安
桂 13－5 北嵯峨

○Fゾーン

向陽 21－6 堀川
大谷 20－5 木津
木津 17－14 堀川
大谷 19－8 向陽
大谷 19－10 堀川
向陽 17－14 木津

○Gゾーン

田辺 15－8 舞鶴高専
洛東 12－0 西乙訓
田辺 12－0 西乙訓
洛東 21－10 舞鶴高専
舞鶴高専 12－0 西乙訓
洛東 21－9 田辺

○Hゾーン

東山 12－8 鴨沂
東稜 14－12 東宇治
東稜 13－10 東山
東宇治 19－6 鴨沂
東稜 26－7 鴨沂
東宇治 21－6 東山

▼決勝トーナメント1回戦

京都西 27－12 京都商
大谷 13－8 桂
日吉丘 20－11 東稜
洛北 15－9 洛東
西宇治 16－15 向陽
桃山 19－16 城南
東宇治 19－12 久御山
乙訓 27－10 田辺

▼準々決勝

大谷 29－11 京都西
日吉丘 13－9 洛北
西宇治 18－7 桃山
東宇治 12－11 乙訓

▼準決勝

大谷 23－15 日吉丘
西宇治 23－11 東宇治

▼決勝

大谷 16（6－6, 10－7）13 西宇治

※大谷は初優勝。

〈女子〉

▼予選リーグ

○アゾーン

田辺 9－4 洛東
嵯峨野 8－5 南八幡
田辺 17－2 洛水
嵯峨野 7－5 洛東
洛東 5－4 洛水
田辺 8－6 南八幡
南八幡 7－3 洛東
嵯峨野 18－6 洛水
田辺 7－6 嵯峨野
南八幡 10－6 洛水

○イゾーン

久御山 6－4 洛北
山城 12－8 精華
久御山 9－3 精華
東稜 10－1 精華
山城 10－2 久御山
東稜 16－1 精華
東稜 20－4 洛北
洛北 13－3 精華
山城 15－10 洛北
東稜 15－2 久御山

○ウゾーン

明徳商 22－3 北稜
桃山 17－1 洛西
洛西 14－9 北稜
明徳商 15－8 桃山
明徳商 15－6 洛西
桃山 11－5 北稜

○エゾーン

京都女 19－8 乙訓
向陽 21－3 桂
向陽 10－7 京都女
乙訓 9－9 桂
京都女 14－6 桂
向陽 16－6 乙訓

○オゾーン

光華 12－5 鴨沂
東宇治 27－3 西乙訓
東宇治 33－2 鴨沂
光華 16－12 西乙訓
西乙訓 14－5 鴨沂
東宇治 19－7 光華

○カゾーン

西宇治 14－10 塔南
北嵯峨 11－9 城南
塔南 11－3 城南
西宇治 12－8 北嵯峨
西宇治 16－4 城南
塔南 17－6 北嵯峨

▼決勝トーナメント1回戦

田辺 9－7 光華
京都女 21－6 山城
東宇治 26－4 塔南
桃山 17－8 嵯峨野

▼準々決勝

西宇治 8－7 田辺
京都女 16－12 明徳商
東宇治 20－8 東稜
向陽 13－11 桃山

▼準決勝

京都女 22－9 西宇治
向陽 11－7 東宇治

▼決勝

向陽 18（9－5, 9－4）9 京都女

※向陽は初優勝。

九州

第21回佐賀県室内総合選手権

（12月14、21日／県総合体育館）

〈一般男子1部〉

▼1回戦
振農会 20－18 白石ク
鵲友ク 16－12 飯田重機
龍登園ク 30－16 佐賀西高OB

▼準決勝
佐賀教員 23－15 振豊会
龍登園ク 17－16 鵲友ク

▼決勝
佐賀教員 14（10－4、4－8）12 龍登園ク

※佐賀教員は3年連続8回目の優勝。

〈一般男子2部〉

▼1回戦
北茂安BBC 8－4 多久中央
神埼高 10－6 中若人会
神埼エラーズ 13－11 基山中OB レディービート

▼2回戦
県総合運動場 10－9 北茂安BBC
YKク 10－9 エッチーズ
神埼高 13－6 ようずよ工務店
Kク 13－7 神埼エラーズ

▼準決勝
県総合運動場 11－9 Y・Kク
Kク 17－11 神埼高

▼決勝
Kク 14（8－5、6－3）8 県総合運動場

※Kクラブは2年連続優勝。

〈一般男子部〉

▼1回戦
若大将ク 20－1 佐賀ファイターズ

▼準決勝
若大将ク 10－9 サンダーバード
基山中 20－6 三瀬ク

▼決勝
若大将ク 19（8－6、11－5）11 基山中

※若大将クラブは初優勝。

〈一般女子1部〉

▼1回戦
アカネ美容室 23－6 佐賀東ク
プッツン倶楽部 17－8 佐賀女高

▼準決勝
ポップク 12－8 アカネ美容室
プッツン倶楽部 11－9 コスモス

▼決勝
ポップク 15（8－2、7－9）11 プッツン倶楽部

※ポップクラブは2年連続4回目の優勝。

〈高校男子〉

▼1回戦
佐賀農A 8－7 佐賀東
佐賀農B 22－13 佐賀西
神埼 13－12 神埼農B

▼準決勝
神埼農A 33－4 佐賀農A
佐賀農B 18－15 神埼

▼決勝
神埼農A 26（11－4、15－6）10 佐賀農B

※神埼農は5年連続優勝。

〈高校女子〉

▼1回戦
佐賀東 11－10 嬉野商
神埼 9－8 神埼農B

▼準決勝
神埼農A 28－4 佐賀東
佐賀女 23－1 神埼

▼決勝
神埼農A 16（6－8、10－7）15 佐賀女

※神埼農は7年連続優勝。

〈中学男子〉

▼1回戦
城北中 11－7 カープ(千代田)
脊振中 11－6 洗心寮
基山中B 11－10 三田川中
三瀬中B 12－3 多久中央中C

▼2回戦
神埼中A 13－6 城北中
基山中C 11－2 多久中央中B
ジャイアンツ(千代田) 33－5 三瀬中A
基山中B 12－10 神埼中B
多久中央中A 16－12 ライオンズ(千代田)
神埼中C 21－5 バッファローズ(千代田)
基山中A 33－2 三瀬中B

▼3回戦
神埼中B 19－9 基山中C
多久中央中D 17－13 ジャイアンツ
基山中B 13－10 多久中央中A
基山中A 16－9 神埼中C

▼準決勝
神埼中A 19－10 多久中央中D
基山中A 13－12 基山中B

▼決勝
神埼中A 20（10－8、10－10）18 基山中A

※神埼中は2年連続8回目の優勝。

〈中学女子〉

▼1回戦
脊振中 20－0 境野ク(千代田)
多久中央中B 7－5 神埼中C
プリティー 11－3 城田ク(千代田)
神埼中B 10－4 多久中央中C
石橋ク(千代田) 15－5 神埼中D

▼2回戦
神埼中A 8－1 脊振中
多久中央中B 11－10 プリティー
千歳ク(千代田) 12－0 神埼中B
多久中央中A 17－2 石橋ク

▼準決勝
神埼中A 14－2 千歳ク
多久中央中A 20－4 多久中央中B

▼決勝
神埼中A 10（5－4、5－1）5 多久中央中A

第25回鹿児島県室内総合選手権

〈男子1部〉

▼1回戦
ソニー国分 27－15 鹿大附中OB
ミラXX 26－18 鹿屋自衛隊
友球ク 21－15 鹿工ク
鹿児島ク 25－20 大島工OB

▼準決勝
ソニー国分 24－15 ミラXX
鹿児島ク 27－24 友球ク

▼決勝
ソニー国分 29（14－13、15－11）24 鹿児島ク

〈男子2部〉

▼1回戦
財部ク 29－16 川商ク
隼人工ク 25－12 加治木HC
鹿屋体大 22－6 頴娃A
薩南工OB 20－15 加治木工A
鹿商B 20－7 鹿工土木
KNCT 21－11 甲陵B
鹿南ク 14－10 甲陵A
国分高ク 21－14 鹿商A
鹿工SSマシン 25－14 鹿大インパレス
加治木工B 23－21 鹿児島大
甲南ク 棄権 自衛隊OB
笠沙OB 34－13 鹿工OB

▼2回戦
財部ク 19－17 鹿南OB
鹿屋体ク 29－17 隼人工ク
薩南工OB 22－6 鹿商B
鹿中央ク 19－11 KNCT
鹿南ク 12－6 指宿ク
鹿工SSマシン 22－17 国分高ク
加治木工B 18－12 甲南ク
笠沙OB 31－15 頴娃B

▼準々決勝
鹿屋体大 24－14 財部ク
鹿中央ク 15－13 薩南工OB
鹿工SSマシン 20－18 鹿南ク
笠沙OB 25－24 加治木工B

▼準決勝
鹿屋体大 24－17 鹿中央ク
鹿工SSマシン 31－24 笠沙OB

▼決勝
鹿工SSマシン 22（9－9、13－10）19 鹿屋体大

〈女子〉

▼1回戦
国分実C 20－11 東谷山ク
附属中ク 11－7 谷山中ク
国分実B 19－5 鹿純心C
鹿中央ク 13－12 串木野女ク
重富ク 20－6 甲南ク

▼2回戦
ソニー国分 29－5 国分実C
鹿児島大B 16－10 鹿純心B
鹿南ク 20－7 附属中ク
牧園高ク 29－7 国分実B
鹿純心A 27－5 鹿中央ク
国分実A 20－1 ミヤコク
鹿児島大A 14－7 財部高ク
牧園E 31－3 重富ク

▼準々決勝
ソニー国分 20－4 鹿児島大B
鹿南ク 14－11 牧園高ク
鹿純心A 14－10 国分実A
牧園E 13－7 鹿児島大A

▼準決勝
ソニー国分 29－7 鹿南ク
牧園E 17－12 鹿純心A

▼決勝
ソニー国分 21（13－5、8－6）11 牧園E

新ルール導入で考えること

川口青陵高校・田村和夫
川口北高校・宮沢則夫

新ルールの導入について、日本協会では、ＩＨＦより先に昭和62年４月より実施することが決まり、関係者の間ではルールの解釈、指導法などで揺れ動いているようである。私どもは、高校の一指導者として新ルールの導入を「ハンドボールをよりおもしろく」という観点から考え、ルールについての意見、練習やゲームを実際に行ったなかで感じたことを述べさせていただきたい。

まず、ゴールイン後のスローオフが変わるという点を考えると、ハンドボールがバスケットボールの要素を多く含み、さらに動的になるということである。ゲーム様相は大きく変化し、練習方法としてコートをスピーディに往復する攻防が数多く取り入れなければならないと感じる。ゲーム様相、練習内容などを考えていくと、スピードにあふれ、かなりハードであると第三者には特に感じられるであろう。そこで、大学で体育学としてハンドボールを研究されている先生方へのお願いとして、従来のルールでの活動量と新ルールでの活動量の違い、タイムアウトをとることによる選手たちの回復度など、基礎的な資料を提供していただきたい。その研究のなかで、ハンドボールが動的でおもしろいという見方とともに、肉体的にハードであるという見方からの、このルールへの考え方が改めてでてくるであろうと考える。何故このようなお願いをするかというと、小・中学校の普及が進んだというものの、ハンドボールを第一スポーツとして入部したり、入会したりした者はそう多くはないはずである。我々指導者にとって、このスポーツの利点と新ルールにおける活動量などなどが明確になっていくならば、さらにおもしろく体育的であるという点で生徒の勧誘にどんどんいけるはずである。その点を考えると、試合の登録人員の増員は当然必要であり、更にもう一歩進んで、ある段階（県予選、地区予選）までは入部しているもの全員が登録されてもよいのではないかと考える。新ルールを利用して、小・中学校の普及をはかるという立場から物事を考えてもよいと思うのであるが……。

さて、新ルールについての意見を続けさせていただこう。スローオフがゴールエリア内のキーパーラインから審判の笛で再開されると聞くが、果たして審判の笛が必要なのであろうか？　私どもは敢えて笛を必要とせず、ゴールレフェリーが確認の手をあげるぐらいにしてもらえないかと考えている。また、キーパーラインが従来のものとどれ位変化するかはわからないが、よりスピーディにと考えるならば、審判の判定のもめごとを省くためにも、その方が見ていて楽しく、難解ではないような気もするのであるが、いかがであろうか。

次に、私どものように、生徒にハンドボールの楽しさをわからせることを第一に考え、教えている指導者層にとっても、試合戦術が大きく変わるであろうということは何か感じるところである。そこで、私どもが実際に新ルール（正式な解釈ではないが）でゲームを行わせたなかでの戦術などの感想を述べさせていただきたい。

まず、プレイバック（バスケットのバックパス）が適用されるということであるから、ゴールインされてからの攻防に工夫される点がでてくるであろう。防御側はオールコートプレスに近い状態が現われるであろう。そうなると、コート中央での攻防の激しさが加わることが予想され、審判員の苦労とともに、戦術として相手にプレイバックをさそわせるような防御システムがでてくると思われる。それ以上の戦術は、私どもにはまだ浮かばないが、今後研究がすすんで、いろいろな戦術がでてくると思われる。そういう技術段階では、今まで以上にキーパーの判断の優劣も相当影響してくると考えられる。

それから、フリースロー時のエリア内のルール改正から、フリースロー戦術も大きく変化していくであろう。ロングシューターの必要性とともに、ブロック技術からのポスト技術など工夫していく必要がある。ある意味では、ハンドボール戦術に頭打ちを感じていた私ども指導者にとっては、新たな意欲を湧き起こすきっかけとなるルール改正でもある。さらにタイムアウトがとれるということも、私ども指導者にとっては喜こばしいことと考えている。今までの試合のなかでも、こういうルールにならないかと心待ちにしていたものである。バレーボールやバスケット、さらにアメリカンフットボールのように、試合の流れを読んで、指導者としての適確なアドバイスで試合の流れを変えたいと願望があったからである。

とりとめのないことを述べさせていただいたが、私どもはルールが変わるならば、そのルールを生かしてハンドボールを発展させることができればと考えています。日本のハンドボールが世界との差、アジアとの差をもてている現状で、このルールが刺激剤となるならば大変喜こばしいことであり、もし、このルールが日本の現状に合わないのであれば、その時にルールを考え直していけば良いと考えている。今、日本のハンドボールに何か刺激をという点からもやってみる価値はあると思う。

最後に、私ども体育指導者の立場では、こういうルールをすでに体育授業で行っています。今回のルール改正は、授業でのハンドボールの導入に対しても、容易であり、授業でのハンドボールの取り入れ方も変化し、ハンドボールを知らない子供もこのルールにより、楽しさや興味を起こしてくれることを期待している次第です。

以上、ハンドボール競技の世界レベルへの発展とともに、小・中学校部活動などの普及や正課体育の普及も考え合わせ、各部署での研究、検討をお願いいたします。

昭和62年度事業計画

月	全国大会	国際大会，海外遠征	審判，普及，指導
62／4	第28回全日本実業団選手権 男子　4/24～4/26（名古屋）	第1回香港国際大会（男Ｎ）4/15～4/19（香港） （4/10～4/20） '87 中正杯（男女Ｊ）　4/13～4/19（台北） （4/10～4/20）	
5	第28回全日本実業団選手権 女子　（大　阪）	ジャパンカップ '87（男女）5/30～6/6（各地） ＵＳＡカップ　（女Ｎ）5/4～5/11（アメリカ）	A級審判審査　5/中　（浦和） B　〃　（中地区）5/下　（京都） B　〃　（西地区）5/　～6/　（九州）
6		第10回世界学生選手権　5/30～6/ 8（ルーマニア） （5/17～6/10） ユーゴカップ（男女Ｎ）6/26～7/ 1　（ユーゴ） （6/17～7/13） ジュニア（男女）世界選手権アジア予選（推定）	B級審判審査（東地区）　6/13～6/14（塩山） B　〃　（北地区）　6/27～6/28（福島） トレーナー，レフエリー国際シンポジューム 6/20～6/24（フランス）
7		第15回インテラムニアカップ（女Ｊ） 7/ 4～7/10（イタリア） （6/25～7/16）	教育系大学研修会　7/末
8	第38回全日本高校選手権　8/ 1～8/ 7（札　幌） 第30回全日本教職員選手権8/ 9～8/14（京　都） 第14回全国高専選手権　8/ 4～8/ 5（宮　城） 第 7回全国クラブ選手権　8/14～8/16（秋　田） 第16回全国中学校大会　8/21～8/24（岐　阜）	アジア選手権大会７～９月の間推定（ヨルダン） '87 日韓ジュニア交流（高校）8/16～8/22（広島） 韓国遠征合宿（男女Ｎ）　8/ 5～8/18（韓国） ４カ国対抗戦（男Ｎ）　8/24～8/26（函館） （日，韓，スペイン，スエーデン）	レフエリー，トレーナー研修会　8/11（京都） 小学生指導者講習会　8/17～8/19（名古屋） JHA レフエリーコース（後期） 8/25～8/27（東京）
9	ＪＨＬカップ イースタンリーグ　9/12～9/14（埼玉・東京） ウエスタン　〃　9/12～9/14(名古屋・大阪)		
１０	第42回国民体育大会　10/25 ～10/30 （沖縄） 第19回全日本自衛隊選手権10/ 2 ～10/ 5 （東京）	第19回女子ジュニア世界選手権 10/23～11/ 1 （デンマーク） （10/10～11/ 3）	レフエリー，トレーナー研修会 10/27（沖縄）
１１	第30回全日本学生選手権 11/12～11/17 （東京）	オリンピックアジア予選（推定）	レフエリー，トレーナー研修会 11/14（東京）
１２	全日本総合選手権　12/中　（東京）	男子ジュニア世界選手権 12/ 3～12/15 （ユーゴ） （11/25～12/17）	
63／1	第12回日本リーグ　1/31～3/ 6（各　地）		
2	第19回実業団トーナメント2/ 5～2/ 7（名古屋）		公認コーチ達成講習会　2/下 指導者講習会（外国コーチ招待）2/下
3	S.62. 全国高校選抜　3/25～3/28（名古屋）		JHA レフエリーコース（前期）3/28～3/30 （東京）



高度なスカイプレーが変幻自在。

スカイハンド®スペシャル（THH705）

- カラー　ホワイト×レッド・レッド×ホワイト・ロイヤルブルー×ホワイト
- サイズ　22.5～28.0cm
- アッパー　ステア表革（ホワイト×レッド）
  牛革ベロア（レッド×ホワイト、ロイヤルブルー×ホワイト）

標準小売価格 ¥13,000

ASICS TIGER

襲う。

ストップ＆ジャンプ性能を徹底追求したシューズ〈スカイハンド®スペシャル〉。つま先からかかとまで衝撃吸収性に富む超軽量スポンジE・V・A・を内蔵したカップソールが、素晴しい軽さ、ソフトな着地感、ストップ性を獲得しました。アクロバチックなスカイプレイを繰り広げながら、ヒッチコックの「鳥」のような圧倒的迫力でゴールを襲うハンドボーラーに捧げます。

株式会社アシックス

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二六〇号
昭和四十年六月
第三種郵便物認可
昭和六十二年二月二十五日 印刷
昭和六十二年三月一日 発行
東京都渋　南一−一−一
電話 代表　)二三六一
振替 東京 六−五八三四八番
編集兼発行人 大野金一
定価三百五拾円
(年間購読料三千三百円)

